



広重版画より 三島 朝霧

第2314回例会

2021.10.28晴

司 会

柴崎恵子君

ロ-タリ-ソング

「それこそロータリー」
指揮 西本和夫君

会長挨拶

会長 森崎祐治君

神無月に思う

10月は旧暦で神無月(かんなづき)というそうです。10月は国中の神様が山陰の出雲に集まるからだとも言われています。

さて神様の存在については様々な議論のあるところですが、信仰を持つ人にとっては大きな問題です。先の大戦でナチスドイツによりユダヤ人は600万人が犠牲となりました。

大戦後フランスのユダヤ人社会では、神は民を救うために何もされなかった。神に見捨てられた、または神の不在とみなして信仰を捨てようとする動きがあったそうです。民族の最大の災厄(さいやく)のときに何の手も差し伸べなかった神は信じるに値しないという理由です。まさに、神も仏もあるものか、という心境でしょう。

皆さんならどう考えるでしょうか。

その時ユダヤ人で哲学者のレヴィナス(親族のほとんどをアウシュビッツで殺された)はこう言って引き留めたそうです。

「ホロコーストは人間が人間に対して行った罪である。神は、人間が神に対して犯した罪は許すことはできるが人間が人間に対して犯した罪をとりなすことはできない。それは人間の仕事である。自分たちの住む世界を人間的なものにするのは人間の仕事である。もし神が人間に代わって世界に秩序をもたらし、悪を罰し、善に報いたら人間は無能な幼児のままでよいことになってしまう。神なしでは何もできない人間を創造することが神の目指したことだったのだろうか。神は神の支援抜きでこの世界を人間的なものたらしめるだけ霊的に成熟した人間を創造されたはずである。神を信じる者だけが神の不在に耐えることができる。成人の信仰とはそのようなものである。』と。(内田樹『修業論』)

神もなかなか厳しいですが、信仰を基礎づけるのは市民的成熟であると言っています。

「幸福な世界を構築するには、まずもって人間が自らの責任で自

分の足元から皆と力を合わせて始めること」と言う信仰の有無にかかわらず誰も納得できる考えだと思います。

神様がいない10月は、人間社会のことは人間同士でしっかり解決しなさいということを再確認する月なのかもしれません。

今まさに国政選挙の真最中。皆さん投票に行きましょ。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 王 雪艶さん(米山奨学生)
渡邊富夫君(長泉RC)
南木一仁さん
(加藤・室伏・藤江・前田(博)君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メ-ク	修 正
前々回	45/48	93.75%	46/48	95.83%
今 回	35/43	81.40%	会員総数	52名

欠席者 秋元君、木村君、窪田君、須田君、橋本君、古屋君、三田君、森藤君

幹事報告

幹事 川名正洋君

①11月例会予定

- 4日(木) 呉竹 臨時総会 卓話 西本和夫君
- 7日(日) 国際交流協会オータムフェア&ロータリー奉仕デー(楽寿園)
- 25日(木) 呉竹 12:30例会 卓話 内田満洋君
- ②本日の卓話者は米山奨学生の王 雪艶さんです。
- ③11月6日ポリオデー募金活動 13:00 イトヨーカドー
- ④11月7日ロータリー奉仕デー開催 8:30 楽寿園
- ⑤11月の例会時食事ですが、4日は今まで通りお弁当、25日に関しては状況により判断

卓 話

米山奨学生

米山奨学生 王 雪艶さん

ロータリー米山記念奨学生として、長泉RCにお世話になっています王(おう) 雪(せつ)艶(えん)です。

在籍大学は 静岡英和学院大学の4年生、人間社会学部、経営学を専攻しています。わたしは中国の河南省から来ました。河南省は中国の南北の境界に位置し、



中国の多くの文化の発祥の地であり、人口は9402万人で、中国でも最も人口の多い3つの省の一つでもあります。河南省は、温暖なモンスーン気候で、高温で雨の多い夏、寒くて雪がたくさん降る乾燥した冬、春と秋が暖かいなど四季がはっきりしています。河南省は平野に位置し、農業が発達していて食用作物が豊富です。河南省の耕作地面積は6871万ヘクタールで、中国で2番目にランクされています。小麦の生産量は一貫して国全体の20%以上を占めており、国内で第1位にランクされています。文化的に重要な観光名所もたくさんあり、河南省の洛陽は、中国の国花牡丹の発祥の地で、毎年4月に牡丹フェアが開催されます。また、少林寺、老澗山、龍門石窟、明唐などの景勝地も古代中国文化の遺産です。このように河南省には数多くの歴史的建造物がありますので、中国の歴史と文化を旅したいなら、河南が最良の選択だと思います。

私の家族には、母、父、兄がいます。母は花を育てるのが好きで、星の花、ユリ、バラの花、甘い香りのモクセイ、ケイトウなどを植えています。父は子犬、ウサギ、鳩などの小動物を育てるのが好きで、伝書鳩6匹、犬1匹、ウサギ20匹以上を飼育しています。私の兄は料理が好きで、魚の煮込みが一番上手です。私は植物の写真を撮ることが一番好きです。そんなに上手じゃないけど、植物の生命力を見たら自分も元気になれると思います。日本に来て一番驚いたのは、日本はとても静かで、昼夜を問わず静かです。また、日本では信号のない交差点では、車が歩行者を優先して横断させるなど、みんなどこでもルールをよく守っていますし、話をする時も他人との距離を丁寧に保つなど、日本では相手のことを考えて行動していることがたくさんあります。中国の伝統文化はにぎやかなのが好きです。例えば、人々が「活気に満ちた」と聞くと心の中でそれを好きになる、彼らは活気に満ち、繁栄していると思いにぎやかになります。中国人は他人との距離感がなく、とても熱く語ります。それは中国人が他人への敬意と好意を示す方法です。そして、日本人は朝晩にいろいろな年齢の人たちが走っていて、健康のために運動する意識がすごいと思います。中国の夕方には、広場で一緒に踊るお年寄りや若者がたくさんいます。仕事の疲れを和らげるだけでなく、健康にも良いです。これらの観点から、日本と中国には多くの文化の違いがありますが、健康への追求は同じであり、これらの文化の違いも魅力的なところだと思います。日本には独特の文化がいろいろあります、私が初めて日本に来た時、静岡市でお祭りを見ました、日本の芸者文化や、四季それぞれに魅力の溢れる日本は自然と神様に感謝し、生きることを喜び、コミュニティを育てるために行ってきたのが日本のお祭り、これまでで記憶に残っているのはきれいな花火を見たこと、お祭りに行くとき着物を着て、みんな礼儀正しくしていると感じました。また、日本には美味しい食べものがいっぱいありますが、その中でも

一番好きなのは坦々麺です、辛いですがすごく美味しいと思います。今、私は大学で経営学と会計の知識を勉強しています。具体的には起業時に必要なSWOT分析、販路、資金、予算計画などの理論と実践です。将来、経営の知識を勉強して中国で介護施設をつかって社会のお年寄りたちが幸せな生活ができるように手伝えていきたいです。中国の社会では子供や一人暮らしのお年寄りたちがたくさんいます。私の故郷にもたくさんいます。若者は大都市にお金を稼ぐために働きに行きます。彼らは年に一度だけ家に帰りますが、普段は高齢者と子供たちが家に残っていますので生活の中で多くの問題に直面しています。子供たちは高齢者の介護ができないし、子供たちの勉強などを高齢者たちは手伝えることができません。ですから将来、私は町に介護施設を建て、ボランティア団体も設立して、子供たちが勉強することができる環境を整えるとともに、お年寄り達の生活不安からくるストレスの心のケアにも力を尽くし、みんなの人生が幸だと感じることができる介護施設を作りたいと考えています。

ロータリーの例会に参加して毎回みんなが優しくしてくれて、いろいろな文化に出会いとても楽しみです。カウンセラーの渡邊さんと餃子の食文化の違いを話して、餃子は中国人にとってお正月の時に主食として食べる大切なご飯で、一般的に水餃子を食べます。日本では焼き餃子もとても多く、主食は別にあり餃子はおかずとして食べているのが中国と違うところです。今年にはコロナの影響で交流の機会が少なくなっていますが、コロナが治まったら多くの活動に参加して皆さんと交流し、もっと日本の文化を学びたいと思っています。米山記念奨学生になってコミュニケーション能力が向上したことは自分自身にとって成長した点だと思います。この1年間は私の今までの留学生活の中で、最も充実した1年間になると思います。色々な人と密に接するチャンスが増え、コロナの影響を受けたけど、Zoomでの交流会も何回か行っています。様々な分野の方々と交流を取ることができてとても楽しみです。また、奨学金のおかげで学習に専念でき、専門知識の勉強に時間をかけることができます。とても感謝しています。私は、ロータリークラブが実践されている奉仕と積極的な交流の大切さを学びました。交流は文化・国境を越え、様々な場面で行われています。これは、「理解」と「平和」のもとに成り立っているのだと強く感じています。将来、機会があれば日本と中国との文化の交流会を行って、それぞれの国の文化交流による懸け橋を作りたいと思っています。そのためには将来鄭州でロータリークラブを設立し、交流の場を広げていきたいと思っています。

委員会報告

50周年実行委員会 委員長 室伏勝宏君
「みんなで創立50周年」
森崎会長のテーマを遂行するための組織表を作りました。サブテーマを募集しています。現在提案されているテーマは「子供たちの未来のために今までも、これからも」です。西ロータリーの目指す奉仕が文章になると良いと思います。委員長室伏、副委員長遠藤正幸までご提案よろしくお祈りします。第1回委員会の集まりはそれぞれの委員長にお任せします。出来る限り室伏・遠藤が参加しますので日程は事前に連絡ください。

※紙面の都合でその他の委員会報告・新会員紹介・スマイルは次号に掲載します。

(週報担当:赤池克斗)